令和6年度　大田区立御園中学校　自己評価　報告書

令和7年3月3日

○　本校の概要

本年度は、1学年3学級、2学年3学級、3学年2学級、生徒数251名（10月現在）の規模となった。また、みらい学園中等部（学びの多様化学校分教室）の3学級に47名の生徒が在籍している。本校の教育課程には、「通常学級」「特別支援教室（拠点校）」「通級指導学級（難聴）」「学びの多様化学校分教室」があり、多様な生徒が学校生活を送っている。
【目指す学校像】「挨拶と笑顔が自慢の御園中」を大切にして、「共生」「自学」「健康」「創造」を柱に、人権尊重の精神と自主自律を基本とし、多様な学びにより生徒の可能性を引き出すとともに、自らの生き方を主体的・肯定的に捉え、社会とつながり、自立するための資質・能力を育成する学校を目指す。
【本校の教育を推進する5つの鍵】本校の教育を推進するうえで、次の5つについて取り組んでいく。
1．いじめ対応、不登校への支援の徹底　2．課題を解決する力、新たな価値を創造する力の育成　3．新たな授業モテルの構築と深い学びに向けた教師の授業力の向上　4．コミュニティ・スクールの推進　5．主体的に考え、行動し、協働していく力の育成

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
個別目標1 予測困難な未来社会を創造的に生きる力を育成します	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	**生徒の学校生活アンケートで「主体的に考え、問題解決のためのタブレット活用」についての肯定的な回答の割合** 肯定的な回答が80%以上	4：	4	【これまでの取組】 ・理科の授業で「自然の事物・現象に関する課題」を与え、生徒の個人予想をもとに班で話し合い、全体で共有した後、実験で検証させることにより課題解決力を育成した。 ・継続・発展的な見通しをもって「社会科見学・移動教室・修学旅行」の事前・事後学習による協働学習を行い、実施した。 ・タブレット端末と電子黒板を活用した授業で、個々の生徒の考えを共有するとともに、調べ学習やプレゼンテーションソフトを発表等により、情報活用能力を育成した。 ・国語科の授業では、小説の登場人物の心情について個々の生徒の考えを共有した後、班での話し合い活動や協働学習を実施した。 ・体育の球技の授業等では、タブレット端末で作戦ボードを使い、チームで話し合い協働学習につなげた。 【今後の改善策】 ・STEAM教育等において、新たな価値を創造する力の育成が課題である。「おおたの未来づくり」研究実践校としての取組を通して育成していく。	A	8	・各科目において、工夫ある実践しており学習の質の向上を図っている。
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	肯定的な回答が60%以上	3：		B	1	・協働学習を行うことで、多角的視野が広がり生徒間のモチベーションが上がっている。 ・今後の更なる向上を期待できる。 ・タブレットが有効活用されていることが分かった。
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	肯定的な回答が40%以上	2：		C	0	・①は見えづらかったがその他の項目は、学校公開等の機会を通じ、充実度が上がっていて、先生方は自信をもって取り組み、生徒も応えていると感じる。
		④「主体的・対話的で深い学び」となるように、小集団での話し合い活動や協働学習を実施する。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	肯定的な回答が40%未満	1：		D	0	・キャリア教育としてその道のプロの方や実際に仕事している方などから話を聞くことや身近な人などから体験を話してもらう機会を増やすよい。
個別目標2 世界とつながる国際都市を担う人材を育成します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	**生徒の学校生活アンケートで「コミュニケーション能力の向上」「国際社会・地域社会への関心」についての肯定的な回答の割合** 肯定的な回答が80%以上	4：	4	【これまでの取組】 ・英語科の授業で、レッスンごとのスキットや外国語教育指導員（ALT）とのQ＆Aのやりとりなどコミュニケーション機会を多く設定するとともに、昼休みの「英語カフェ」でのゲームなどを実施している。 ・社会科の「地域の在り方」の章での学習や6か国の外国籍生徒と海外からの一時編入生徒との関わり方から異文化の理解と互いに尊重し合う心の育成をしている。 ・社会科の「地球社会と私たち」の章で、エネルギーや環境問題等の解決に向けて「自分にできること」を考えさせ、全体で共有した後、具体的な行動について検討させている。 【今後の改善策】 ・国際理解教育の実践がしやすい教室環境を整えた「国際理解教室」を整備していく。 ・外国語教育指導員（ALT）の変更が2回あり継続的に指導を積み上げることができなかったため、今後は指導力があり継続して配置されるALTの派遣を要請する。	A	8	・生徒と先生の関係性が良好で、分かるまでしっかり聞くことができる環境が素晴らしい。日本人特有の控えめな面をなくし、自分の意見をはっきり伝える人材育成を今後も引き続き行ってほしい。 ・グローバルなコミュニケーションには言葉も大切だが、それ以上に異文化の理解が大切なことであり、お互いの文化を尊重できる人間の育成が実践されていることは良い。 ・学校公開等で拝見したが、先生の問いかけに生徒が考えて応える（口頭だけでなく態度でも）スタイルが定着した。
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	肯定的な回答が60%以上	3：		B	1	
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	肯定的な回答が40%以上	2：		C	0	
		④国際理解教育を充実させ、異文化への関心や共生社会にふさわしい人権感覚の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	肯定的な回答が40%未満	1：		D	0	
個別目標3 一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力を育成します	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	**生徒の学校生活アンケートで「規則や規律を守る」「健康や安全に気を配る」についての肯定的な回答の割合** 肯定的な回答が80%以上	4：	4	【これまでの取組】 ・「特別の教科 道徳」の授業を中心に「正義感」「責任感」「規範意識」を高めるとともに、「思いやり心」を育てることに重点をおいて生徒の道徳的な実践態度を育てた。また、講師を招聘して「生命尊重の視点に立った道徳教育」の校内研修会を実施した。 ・数学科は習熟度別、英語科は習熟の程度を考慮した少人数指導を展開し、個に応じたきめ細やかな学習指導を行った。各種検定については、2回の英語検定と3回の漢字検定を実施した。 ・保健の「健康な生活と病気の予防」の単元での学習やタブレットを使った「早寝・早起き・朝ごはんチェックシート」（年3回）の実施と結果を生徒・保護者にフィードバックした。 ・校区内の2校の小学校と年間3回の授業公開と教育課題ごとの分科会での話し合いと全体会での共通理解、新入学生徒の情報共有により、小中一貫の連携を深めた。 ・年間6回の土曜補習教室、年間19回の放課後学習教室により基礎学力の定着を図った。 【今後の改善策】 ・年間20回の放課後学習教室の参加者が少ないため、学習習慣が定着してない生徒を対象に、各教科担当や学年の教員から積極的に参加を促すとともに、日々の家庭学習を継続させる指導をしていく。	A	7	・現在の日本の実態は、他外国と比較すると発想力が劣っていると、常日頃感じている。これからを担う子どもたちに、想像力を養い海外に引けをとらないような人材になってくれることを期待している。基礎学力を定着させて、発展に繋いでいってほしい。 ・生徒たちが素直に丁寧に学校生活を送っている様子が見られ、地域の者として安心して見守っている。
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	肯定的な回答が60%以上	3：		B	2	
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	肯定的な回答が40%以上	2：		C	0	
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	肯定的な回答が40%未満	1：		D	0	
		⑤定期考査前の質問教室・放課後補習・土曜補習教室等を実施する。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3						
個別目標4 学校力・教師力を向上させます	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	**生徒の学校生活アンケートで「授業はICT機器を有効活用して分かりやすく深く考えることができる」についての肯定的な回答の割合** 肯定的な回答が80%以上	4：	4	【これまでの取組】 ・タブレット端末の学習コンテンツを活用し、習熟の度合に応じた演習問題に取り組ませた。英語科では、習熟の程度を考慮した少人数指導により協働的な学びとなるようにした。 ・夏季特別指導（夏のわくわくスクール）では、3教科で8回の特別指導を実施した。 ・3つの部活動に部活動指導員、6つの部活に校外指導員を配置し、放課後、教員が生徒に向き合う時間を確保した。 ・保護者配布文書をクラウド型教育プラットフォーム（まなびポケット）のデジタル連絡機能での配布、職員会議資料のPDF化、教員支援員への印刷・配布の委託により、校務の効率化を図った。 【今後の改善策】 ・指導教諭の模範授業への参観を通して授業力を向上させる。 ・タブレット端末のアプリケーションソフトを有効活用した授業実践例を参考にした授業の工夫改善を今後も継続していく。	A	7	・先生同士が生きがいをもって生徒の指導にあたっているのが伝わってくる。それは、生徒にも通じ相乗効果をもたらしていると感じている。双方が学力向上・人間性を高めていけているので、更に上を目指していってほしい。 ・ペーパーレスの取組に着目している。環境改善に資するし、多用な保護者が空き時間に活用できるので非常に好ましい。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	肯定的な回答が60%以上	3：		B	2	
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4：「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1：「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	3	肯定的な回答が40%以上	2：		C	0	
		④保護者配布文書のデジタル配信や職員会議のペーパーレス化などICT活用して、校務の効率化を働き方改革につなげる。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	肯定的な回答が40%未満	1：		D	0	
個別目標5 自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	**生徒の学校生活アンケートで「学校生活・学校生活は楽しい」についての肯定的な回答の割合** 肯定的な回答が80%以上	4：	4	【これまでの取組】 ・指導教諭の模範授業への参観と参観者による巡回指導教員への還元、担当教員内での事例研修により資質・能力の向上に努めた。また、年間8回の巡回相談心理士による指導助言を受け、共通理解を図った。特別支援教室拠点校として、グループ内6校の巡回校と連携した。 ・毎週の生活指導部会において、いじめの未然防止と早期発見と対応を組織的に行った。また、年2回の「ふれあい（いじめ防止強化）月間」で、教員シートによりいじめ防止等対策の取組状況を把握し、理解が不十分な教員がいないようにした。 ・1年生全員と転入生にスクールカウンセラーとの面接を実施した。不登校の生徒は、校内の教職員か学校外の機関とすべてつながるようにした。また、大田区教育センター教育相談室のスクールソーシャルワーカーと連携して支援を行った。 ・欠席が続いた生徒・保護者への迅速な電話連絡と担任や登校支援員による家庭訪問を随時行った。複数の登校支援員による対応により、不登校生徒との信頼関係が構築され、不登校生徒の6割が別室登校できた。 【今後の改善策】 ・学校行事の取組や生徒会による自治部の活動において、生徒の帰属意識と自己有用感を感じることができる活動の充実を図る。 ・いじめの早期発見のために、今後も全教職員が休み時間や放課後の生徒の様子をアンテナを高して見守っていく。 ・不登校傾向の生徒へのこまめな連絡など早期対応をして、新たな不登校生を出さない取り組みと別室登校の環境を充実させる。	A	6	・他校のいじめ問題を聞いているが、学校によっては見て見ぬふりに対処しているといったケースもあるようである。御園中のようにいじめの原因を精査し、不登校に陥らないよう働きかけることが大切と考える。色々な取組をして解決していこうというスタンスを継続していってほしい。 ・地域教育連絡協議会でもいじめ対応を詳しく説明していただき、真摯に取り組まれている様子を把握している。一律に不登校といっても様々で、今の時代はそこまでやらないといけないのかと思うくらいの学校の対応は、ありがたいと感じている。 ・小さなことにも足を止め向き合うことが大切なことだと思う。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4：「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満の教員が回答した。 2：60%以上80%未満の教員が回答した。 1：「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	4	肯定的な回答が60%以上	3：		B	3	
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	肯定的な回答が40%以上	2：		C	0	
		④新たな不登校生徒の出現を抑止し不登校生徒の出現率を低下させるとともに、学校外の機関や校内の教職員とつながっていない生徒をなくす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	肯定的な回答が40%未満	1：		D	0	
個別目標6 柔軟で創造的な学習空間と安全・安心な教育環境をつくります	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	**保護者の学校評価アンケートで「ICT機器の有効活用」「特色ある食育活動」についての肯定的な回答の割合** 肯定的な回答が80%以上	4：	4	【これまでの取組】 ・学期に1回の安全点検により、修繕が必要な箇所を把握し、安全な学校生活が送れるように学習環境を整備した。 ・大田区防災危機管理課と連携した「起震車・煙体験ハウス」での避難体験、大田区都市基盤整備部と連携した「スタントマンによる交通事故再現（スケアードストレイト）」、蒲田警察署と連携した「自転車実技教室」「不審者侵入時の対応訓練」を実施した。 ・「食物アレルギー面談」や「アレルギー対応連絡表」と日々の食物アレルギー対応の確認により、事故を防止した。主任栄養教諭による社会科・理科・保健体育科・総合的な学習の時間での「食育の授業」や給食の時間帯での「食育動画の配信」や「紙面でのニュース」により、特色ある「食育」を実施した。 【今後の改善策】 ・関係機関と連携した実践的な避難訓練や安全指導を継続していく。 ・栄養教諭による特色ある「食育」の実践を給食時と各教科とのコラボレーションにより実施していく。	A	7	・南海トラフ地震や洪水など、時間を選ぶことなく発生する可能性を想定して、高齢化が進むなかで、地域の手助けができるような教育を推進してほしい。 ・食べる物で体は作られていき食べることは体をしっかり作り、充実した体があれば学びもしっかりできると思う。これからも食育を大切にしてほしい。 ・給食を通して学校のメッセージが子供に伝わっていて、豊かな心が育まれていると感じる。生徒は今は実感しなくても将来に学校から愛されていたと思うはずである。
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	肯定的な回答が60%以上	3：		B	2	
		③保護者との連携のもと、食物アレルギーの事故防止を徹底するとともに、特色ある「食育」を実施する。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	肯定的な回答が40%以上 肯定的な回答が40%未満	2： 1：		C D	0 0	
個別目標7 学校・家庭・地域の連携・協働による地域コミュニティの核としての学校をつくります	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	**保護者の学校評価アンケートで「学年通信や学校ホームページにより学校の様子がよく分かる」についての肯定的な回答の割合** 肯定的な回答が80%以上	4：	4	【これまでの取組】 ・年3回の「地域教育連絡協議会」や校区の小学校と地域による「あじさい会」の会合を中心に地域との連携を図った。町会からの依頼による「学校防災活動拠点訓練」「防災フェスタ」「餅つき大会」等へのボランティア参加を周知した。 ・「保護者を対象とした情報モラル講習会」「外部講師を活用したがん教育」、学校支援地域本部（みその学校サポート）による「土曜補習教室」を定期考査間に年6回実施した。 ・みその学校サポートの支援により、85名の生徒が34事業所で職場体験を実施できた。また、第1学年で2回の福祉体験を実施した。 【今後の改善策】 ・生徒の健全育成に関しては、校内の指導で十分な状況にあるが、安全指導も含め、地域の協力を高めていく。 ・蒲田西特別出張所および保護司と連携して「社会を明るくする運動」の講演会を実施することで、地域コミュニティの核としての役割を果たす。	A	6	・地域との連携を図ることは、中学生が重要な役割を果たせる活躍の場となることを生徒たちに自覚してもらい、意識向上を図ってもらえたら我々も力強く感じられる。是非先生方にも積極的に参加していただき、生徒をひっぱり出していただけると嬉しい。 ・保護者にとって学校の様子が分かることは、大切なことだと思う。これからも地域、保護者が学校の様子がよくわかるように、学校からの発信をお願いしたい。 ・昨年に続き同じ意見を述べるが、今後の改善策については地域が学校へ歩み寄ることが必要だと思う。例えば受けたい行政サービスを地域の方がスムーズに受けられるようにする為にもICT化支援が必要で、その糸口になるのが学校運営協議会の活動であってほしい。御園中は早くから職場体験に取り組んだが、事業所カルテ作成等、当時からICT活用が出来ていた。先駆的な取り組みに積極的に挑む地域性を大切にしたい。 ・地域の立場からも、生徒と関わりがある事を嬉しく思う。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	肯定的な回答が60%以上	3：		B	3	
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	肯定的な回答が40%以上	2：		C	0	
		④職場体験や福祉体験を地域と連携して実施し、地域とともにある特色ある学校づくりを進める。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	肯定的な回答が40%未満	1：		D	0	

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。